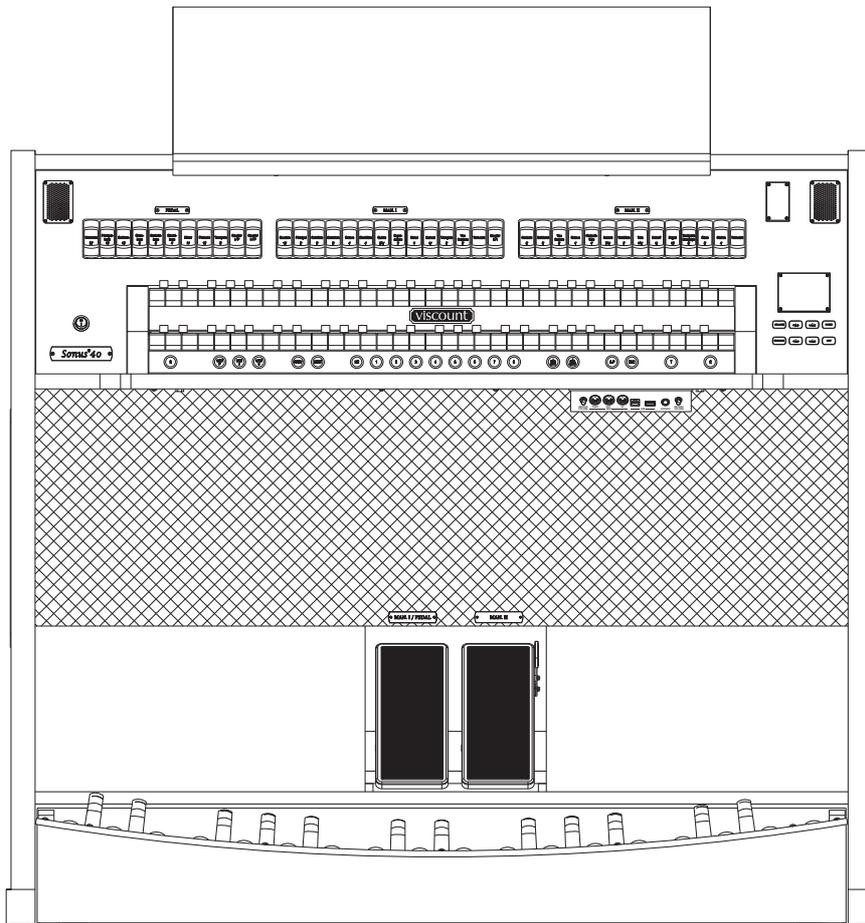




VISCOUNT

CLASSIC ORGAN

Sonus 40



取扱説明書

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
---	---

 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
---	--

■ 本体に表示されている警告マークについて

本体には、次の警告マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」

警告

電源 / 電源コード



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。



必ず実行

電源プラグをコンセントに差し込む前に、必ずアース線を接続する。

確実に接地接続しないと、感電や火災、または故障の原因になります。アース接続をはずす場合は、電源プラグをコンセントから取りはずしてから行ってください。

分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。

水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センター（42ページ参照）に点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にもろそくなど火気のあるものを置かない。

もろそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センター（42ページ参照）に点検をご依頼ください。

注意

電源 / 電源コード



たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々へけがをしたりする原因になります。



禁止

本体を壁につけない。
換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。壁から3cm以上離してください。



必ず実行

この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行なう。

この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々へけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々へ転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグへ容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネルや鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、オルガンやコントローラー（ノブ、ボタンなど）、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。

ベンチ



禁止

不安定な場所に置かない。
ベンチが転倒して、お客様やほかの方々がかげがをする原因になります。



禁止

ベンチで遊んだり、ベンチを踏み台にしたりしない。
ベンチが転倒したりこわれたりして、お客様がかげがをする原因になります。



禁止

ベンチには二人以上ですわらない。
ベンチが転倒したりこわれたりして、お客様がかげがをする原因になります。



必ず実行

組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。
手順どおりに正しく組み立てないと、ベンチが破損したり、お客様がかげがをしたりする原因になります。



必ず実行

ベンチのネジを定期的に締め直す。
ベンチを長期間使用すると、ベンチのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属の専用レンチで締め直してください。



必ず実行

ベンチの脚で床を傷つけないよう注意する。
ベンチの下にマットを敷くなどして、床を保護されることをおすすめします。



必ず実行

小さなお子様の後方への転倒に注意する。
背もたれがないため、後方へ転倒してけがをするおそれがあります。



必ず実行

ベンチを手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布を使用する。
ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは、変色/変質の原因になりますので、使用しないでください。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

ベンチの組み立て方

 硬くて平らな場所で組み立ててください。

付属品をご確認ください。

- | | |
|-------------|----|
| • 座板 | 1枚 |
| • 側板 | 2枚 |
| • フットレスト | 1個 |
| • ネジ(M6×45) | 8個 |
| • 専用レンチ | 1個 |

1. 側板(脚)を取り付ける。

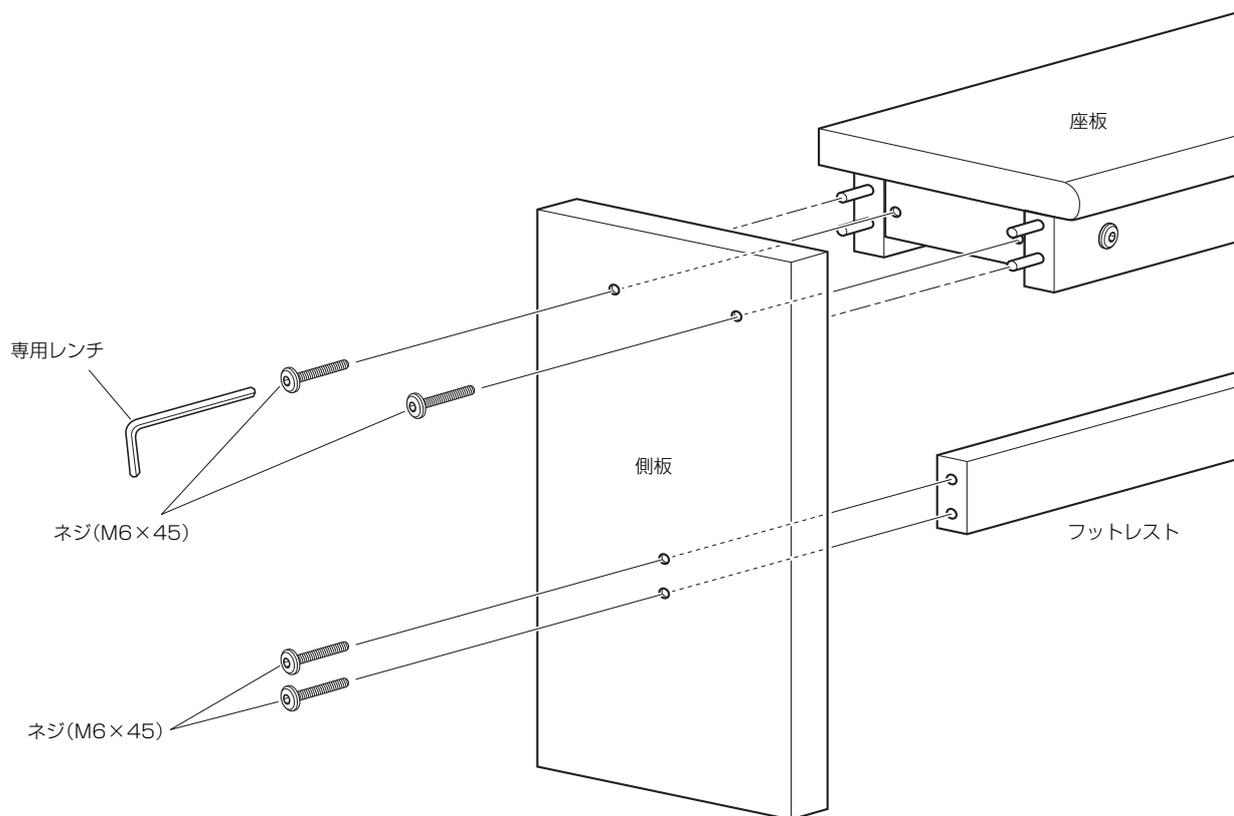
付属のネジ(M6×45)で側板を座板に取り付けます。側板を座板側に押さえつけながら、付属の専用レンチでネジを締めます。同様に側板をフットレストに取り付けます。

2. ベンチを設置場所に置き、ぐらつきがないか確認する。

ぐらつく場合は、専用レンチでネジを締めなおします。

3. ネジにゆるみがないか確認する。

ゆるみがある場合は、座板と側板のすき間がなくなるまで、ネジをしっかり締め付けてください。



足鍵盤の取り付け方

足鍵盤は簡単に取り付けたり、取り外したりできます。

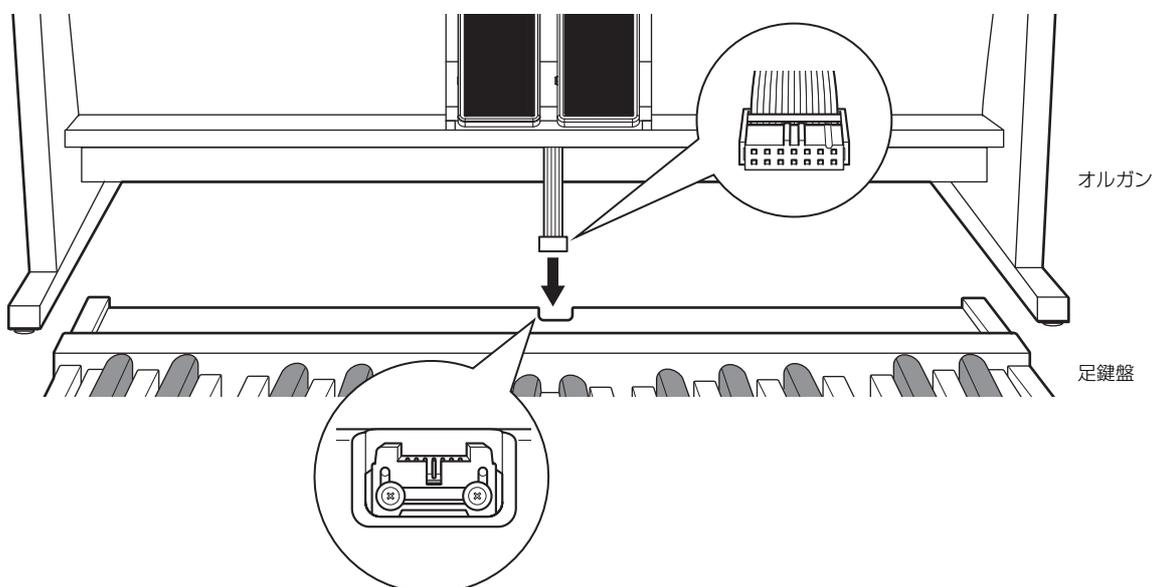
足鍵盤には平行凹型と扇凹型の 2 タイプがあります。以下では平行凹型で説明していますが、扇凹型も同じ手順で取り付けます。

! 足鍵盤は大変重いため、作業時はけがをしないようにご注意ください。

! 足鍵盤を取り付けたり、取り外したりするときは、オルガン本体の電源がオフになっていることを確認してください。

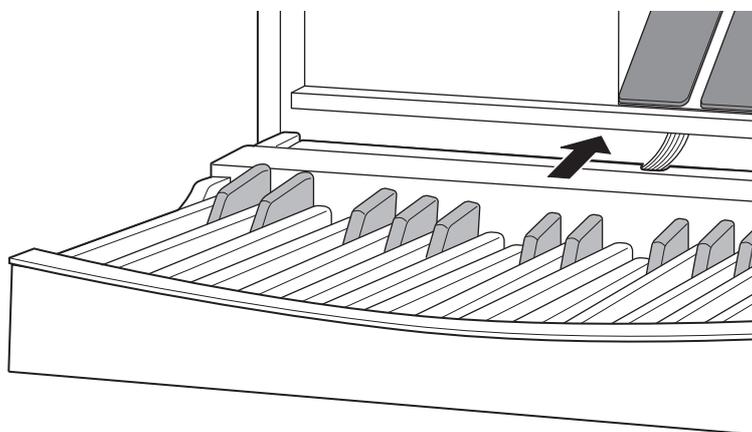
1. オルガンの中央から出ているケーブルを、足鍵盤の端子に接続する。

ケーブルのコネクターと足鍵盤の端子の向きを確認のうえ、間違えないように接続してください。
また、ケーブルのコネクターは無理やり奥まで差し込まないようにしてください。

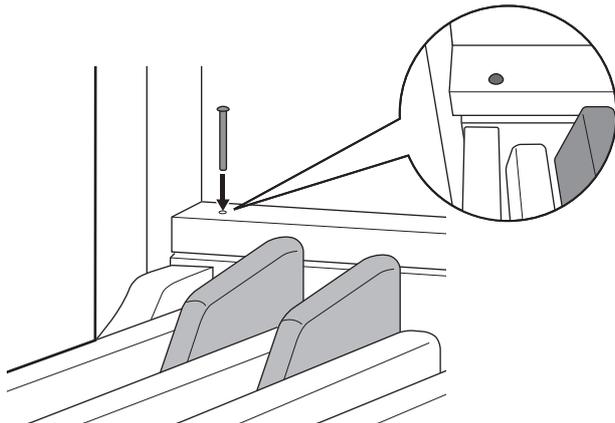


2. 足鍵盤をオルガン側に押し込む。

ケーブルをオルガンと足鍵盤の間にはさまないようにご注意ください。



3. ピンを左右2カ所に差し込んで、オルガンと足鍵盤を固定する。



※ピンでの固定が不要なモデルもあります。

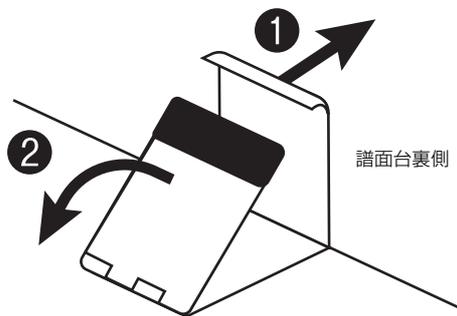
運搬/移動時のご注意

オルガンを移動するときは、以下の点にご注意ください。

- 移動する前に、必ず足鍵盤を取り外してください。
- 電源コードをコンセントから抜き、他の機器との接続コードは取り外してください。コード類はオルガンの下に巻き込まないようにしてください。
- オルガン背面の両側に取っ手用の穴があいていますので、移動時にお使いください。

譜面台のたたみ方

譜面台を手前に引き、譜面台裏側のロックを解除してください。



目次

1. 重要な注意事項	10
1.1 製品の取り扱い / お手入れに関する注意	10
1.2 データの保存に関する注意	10
1.3 データの著作権に関するお願い	10
1.4 取扱説明書に関するお知らせ	10
2. イントロダクション	11
3. 各部の名称とはたらき	12
4. 電源を入れる / メイン画面	17
5. ボリュームの調節 (VOLUME CONTROLS 機能)	18
6. 本機のチューニング (TUNING メニュー)	19
7. オルガンスタイルの設定 (STYLES メニュー)	20
8. ボイスの選択 / 調整 (VOICES メニュー)	21
8.1 ボリュームの調節 (VOLUME LEVEL 機能)	21
8.2 パラメーターの設定 (EDIT PARAMETERS 機能)	22
8.3 交換ボイスの選択 (ALTERNATIVE VOICES 機能)	23
9. 一般設定 (SET-UP メニュー)	25
9.1 オーディオ出力のルーティング設定 (EXT. OUT ROUTER 機能)	26
9.2 オーディオ出力の設定 (EXT. OUT CONFIG 機能)	27
10. ユーティリティ /MIDI の設定 (UTILITY AND MIDI メニュー)	29
11. ファイルの管理 (FILE MANAGER メニュー)	30
12. 再生と録音 (SEQUENCER 機能)	31
12.1 曲の再生 (PLAY モード)	31
12.2 曲の録音 (RECORD モード)	32
12.3 シーケンサー再生オプション (PLAY OPTIONS モード)	35
12.4 ソングリスト (SONGLIST 機能)	35
13. 付録	37
13.1 ストップのローカルオフ	37
13.2 工場出荷時の設定	38
14. 製品仕様	39
デモソングリスト	40
MIDI インプリメンテーションチャート	41
保証とアフターサービス	42

1. 重要な注意事項

1.1 製品の取り扱い/お手入れに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のあたる場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多い場所で使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。
- 本体を手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- ベンチを手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- アンプや拡張システムに接続するときは、必ず高品質のシールドケーブルをご使用ください。
- 電源コードはアース付きのコンセントに接続してください。

1.2 データの保存に関する注意

- 本体に保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBメモリーに保存してください。
- 保存したUSBメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBメモリーにバックアップとして保存されることをおすすめします。

1.3 データの著作権に関するお願い

- バイカウント社および第三者から提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。

1.4 取扱説明書に関するお知らせ

- 本書のいかなる方法による無断複製・転載を禁じます。
- 本製品のすべての機能を使い、演奏をお楽しみいただくため、この取扱説明書をよく読んでご活用ください。
- この取扱説明書は大切に保存してください。
- 仕様、付属品および外観について、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。実際の仕様と異なる場合があります。
- 本書では各部(ノブ、ボタン、端子など)の名称を[]で囲んで表示します。例えば、[ENTER]はENTERボタンのことを意味します。
- この取扱説明書では、本書制作時のオペレーティングシステムバージョンにおける操作方法を説明しています。
- 各機能の詳細については、リファレンスマニュアルをご覧ください。リファレンスマニュアルは以下のウェブサイトからダウンロードできます。
<http://www.viscountinstruments.com/> (英語版サイト)
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

2. イントロダクション

ごあいさつ

バイカウントオルガン **Sonus** をお選びいただき、まことにありがとうございます。

バイカウント社は、高級クラシックオルガンの世界のリーダーで、最新のハイファイ技術を駆使して、先進的で最も洗練されたパイプオルガンの音色再現を可能にし、柔らかく印象的で高品質な音色を搭載したパイプオルガンを完成させました。

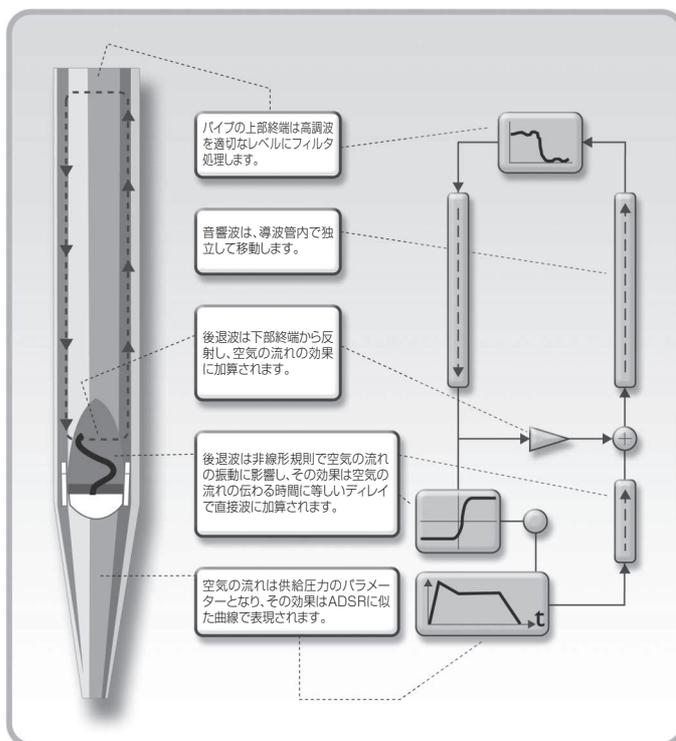
年月を重ね音源の生成技術を探求しているバイカウント社の研究開発部は、物理的なモデリングテクノロジーを採用した「**Physis(フィシス)**」の技術を使うことによって、世界で最初にパイプオルガンの音色を生成することに成功しました。

以前より標準的に用いられてきた「パイプオルガンの音サンプル」を使うという手法の代わりに、この革命的な音源システムはシステムから発生する音の周波数をリアルタイムに計算し、主要な物理的なパラメーター、例えば構造物の幾何学的形状、使われた材料、風圧などを解析して、正確で数学的なモデリングを行うことにより荘厳な音を生み出しています。

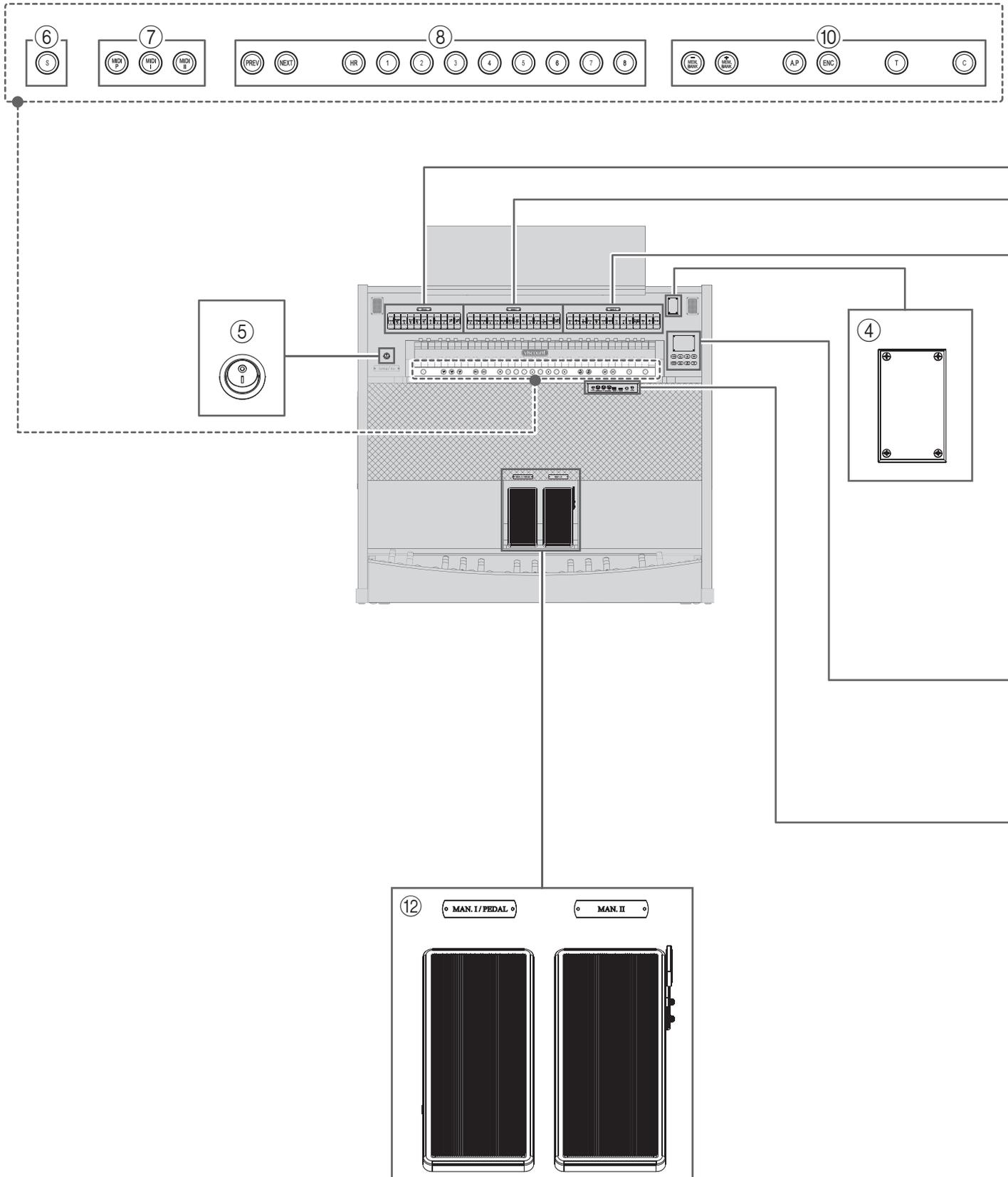
記憶された「音」を単純に再現する方法とは異なり、伝統的なパイプオルガンのみが生み出せる詳細な響きを再現することにより、想像を超えたレベルまで実際の音に近づけた緻密な表現力が達成されました。

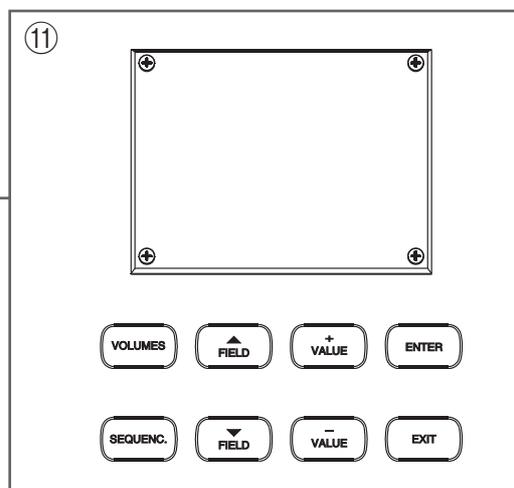
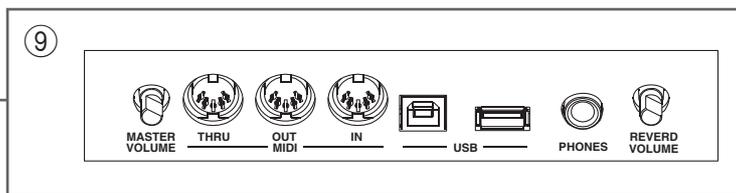
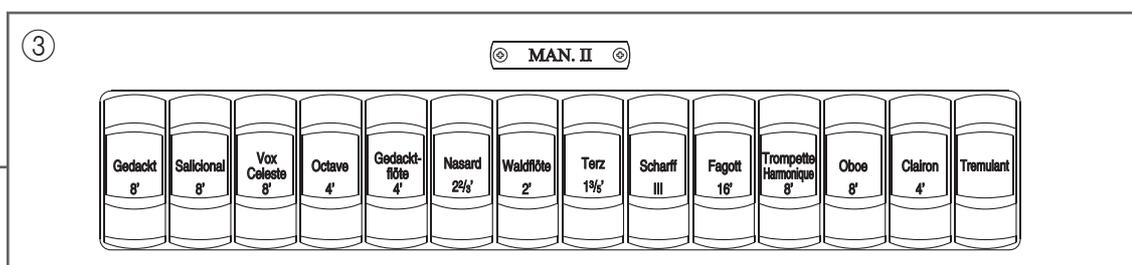
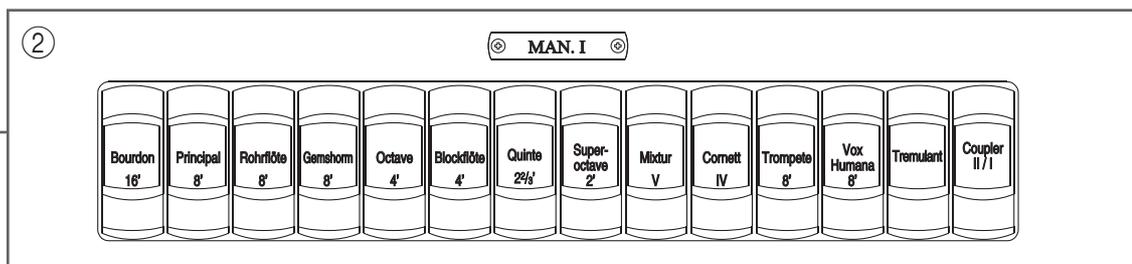
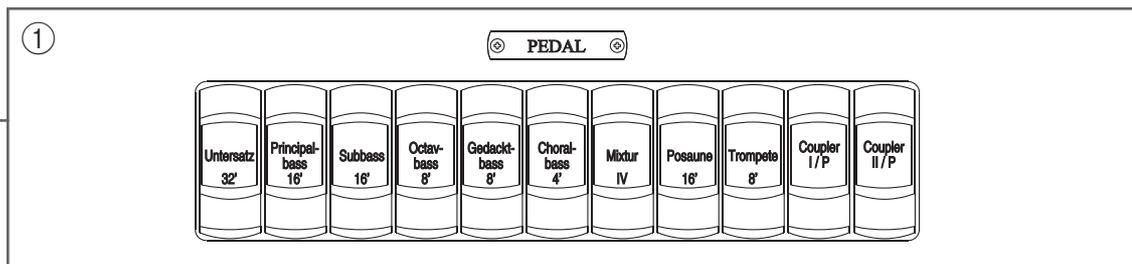
例えば、実際のパイプオルガンがそれぞれのキーごとに異なったパイプを割り当てるように、オリジナルの楽器同様、音色を仮想的に再現し、計算された音源によりそれぞれのキーに異なった音を提供できます。さらに、キーが継続して押された場合、パイプの中の風圧の状態を正確にシミュレートして、同じキーの場合でも連続したプレッシャーにより変化する音を生成します。

オルガンの制作者がたくさんのパイプを製造するように、**Sonus** では作り出される膨大な音のパラメーターを編集し、「物理的」に調整することが可能です。もし音の「編集」に時間をかけたくない場合、オルガンのメモリーに搭載されているライブラリから、プリセットされたパイプオルガンのボイスをあなたの音として選択できます。

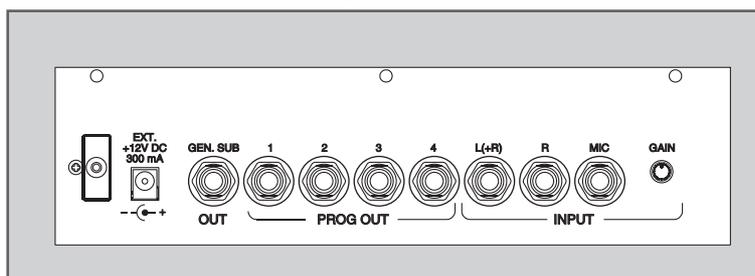


3. 各部の名称とはたらき





⑬ 背面



① 足鍵盤 (PEDAL) セクション

足鍵盤の音色ストップと手鍵盤/足鍵盤のカプラーです。以下のカプラーを使用できます。

- ・ [I/P]: 第 I 手鍵盤を足鍵盤へ
- ・ [II/P]: 第 II 手鍵盤を足鍵盤へ

② 第 I 手鍵盤 (MAN. I) セクション

第 I 手鍵盤の音色ストップとトレモロ、手鍵盤のカプラーです。以下のカプラーを使用できます。

- ・ [II/I]: 第 II 手鍵盤を第 I 手鍵盤へ

③ 第 II 手鍵盤 (MAN. II) セクション

第 II 手鍵盤の音色ストップとトレモロです。

④ メモリーバンクディスプレイ

[MEM. BANK +]/[MEM. BANK -] ボタン(⑩項)を使用して選択したコンビネーションのメモリーバンク番号を表示します。

⑤ 電源スイッチ

本機の電源をオン/オフします。

⑥ [S] ボタン

コンビネーション、トゥッティ、クレッシェンドの段階を保存するためのボタンです。

コンビネーションまたはトゥッティを保存するには、ボイスを設定したあとに、[S] ボタンを押しながら、保存したいコンビネーションのボタンを押します。

クレッシェンドの段階を保存するには、同名の足鍵盤でその段階を選択したあとに、[S] ボタンを押しながら、[HR] ボタンを押します。ある段階の設定内容を別の段階にコピーするには、コピー元の段階を選択し、[S] ボタンを押しながらコピー先の段階を選択してから、[HR] ボタンを押します。

メモ:

[S] ボタンのインジケーターが消灯しているときは、LOCK ORGAN機能(29ページ参照)でオルガンのプログラミングがロックされています。その場合はコンビネーション、トゥッティ、クレッシェンドを変更できません。

⑦ MIDI セクション

手鍵盤および足鍵盤のMIDIノートメッセージを[MIDI OUT]端子から出力するか、または無効にするかを設定します。

⑧ ジェネラルボタン

- ・ [1]~[8]: 選択されたメモリーバンクに保存されているコンビネーションを呼び出します ([PREV]/[NEXT]を参照)。これらのコンビネーションは変更できます。⑥項の手順をご覧ください。
- ・ [HR]: メモリーを呼び出す前にマニュアルモードで設定したボイスの設定を復元します。
- ・ [PREV]/[NEXT]: ジェネラルコンビネーションのシーケンサーです。[PREV] ボタンで降順、[NEXT] ボタンで昇順に表示されます。また、[S] ボタンを押したまま [PREV] ボタンまたは [NEXT] ボタンを押すと、メモリーバンクを選択することができます。

⑨ フロント接続パネル

このパネルには、頻繁に使う端子やコントローラーがあります。

- **[MASTER VOLUME]**: 主音量を調節します。
- **[MIDI THRU]**: [MIDI IN] 端子から受信したMIDIデータを他のMIDI楽器に再送信するための端子です。
- **[MIDI OUT]**: 本機が生成したMIDIデータを送信するMIDI出力端子です。
- **[MIDI IN]**: 外部MIDI機器から送信されたデータを受信するMIDI入力端子です。
- **[USB]**: 2つのUSB端子を装備しています。左側はコンピューターに接続して、楽器の設定プログラムを使用する場合に使用します。右側はUSBメモリー(本機には付属していません)を接続します。オルガン設定や内蔵シーケンサーで録音した曲を保存できます。
- **[PHONES]**: ヘッドフォンを接続します。接続すると内蔵アンプの音はミュートされます。
- **[REVERB VOLUME]**: リバーブ効果のレベルを調節します。

メモ:

- MIDIインターフェースの詳細については、29ページをご覧ください。
- USBメモリーの詳細については、30ページをご覧ください。

⑩ 本機全体のコントローラー

以下のコントローラーは、それぞれのセクションではなく、本機全体にはたらきます。

- **[MEM. BANK +]/[MEM. BANK -]**: メモリーバンクを選択します。選択したメモリーバンクの番号は、メモリーバンクディスプレイ(④項)に表示されます。
- **[A.P.]**: 第I手鍵盤で足鍵盤の音色を演奏できる、オートマチックペダル機能をオンにします。この場合、オルガンの足鍵盤から音が出なくなり、手鍵盤で最も低い音符を優先して発音します(モノフォニーで発音します)。
- **[ENC]**: エンクローズド機能がオンのとき、[MAN. II]のエクスペッションペダル(⑩項)を使用して、全体の音量を調節します。
- **[T]**: トゥットィーを呼び出します。トゥットィーの設定は変更できます。⑥項の手順をご覧ください。
- **[C]**: キャンセルボタンです。すべてのストップ、トレモロ、カブラー、手鍵盤上のその他のボタンをオフにします。

メモ:

本機の電源を入れると、常にメモリーバンク1番が選択されます。

⑪ 設定画面(コントローラー/プログラミング)セクション

このセクションのボタン類とディスプレイを使用して本機と内蔵シーケンサーをプログラムし、設定します。

- **[VOLUMES]**: すべてのポリュームを調節するための画面を表示します。
- **[SEQUENC.]**: 本機の内蔵シーケンサーを使用するための画面を表示します。
- **[FIELD▲]/[FIELD▼]**: カーソルを移動するためのボタンです。カーソルを合わせた項目は反転表示されます。[FIELD▲]ボタンはカーソルを上または前の項目に、[FIELD▼]ボタンはカーソルを下または次の項目に移動します。
- **[VALUE+]/[VALUE-]**: パラメーターの値(数字またはアルファベット)を調節するためのボタンです。[VALUE+]ボタンで値が増加し、[VALUE-]ボタンで値が減少します。
- **[ENTER]/[EXIT]**: ディスプレイのメニューにアクセスしたり、終了したりするボタンです。システムのメッセージを確認またはキャンセルするときに使用します。メニューにアクセスまたは確認する場合は[ENTER]ボタンを、メニューを終了またはキャンセルする場合は[EXIT]ボタンを押します。

⑫ エクスペッションペダル

エクスペッションペダルは1つまたは複数のセクションの音量を常にコントロールし、種々のダイナミックな効果を生むために使用します。

- **[MAN. I / PEDAL]**: 第I手鍵盤と足鍵盤の音量を同時に連続的に調整します。
- **[MAN. II]**: 第II手鍵盤の音量を連続的に調整します。オーケストラボイスのサステイン効果を調節するためのレバーシステムが組み込まれています。

⑬ リア接続パネル

本機の背面には、外部スピーカーシステムに接続するための端子や、内蔵アンプを使用するためのライン入力/マイク入力端子が搭載されています。

- **[EXT.+12V DC]**: **[PROG. OUT]** 端子に接続されたバイカウント製スピーカーに、+12Vの電源を供給します。
- **[GEN. SUB OUT]**: 低域音再生用スピーカー(サブウーファー)を接続するための専用の出力端子です。
- **[PROG. OUT]**: 本機のオーディオ信号を出力する端子です。パイプオルガンの風箱のシミュレーションが可能です。
出力する信号は本機のメニューで設定可能です。それぞれのストップについて、風箱のタイプ、サイズ、スピーカーの位置を設定できます。また各端子の出力レベルやイコライザーも調整できます。
- **[L(+R)/R INPUT]**: 本機の内蔵アンプを使用して他の楽器を演奏するために接続するライン入力端子です。音源がモノラルの場合は[L(+R) INPUT]端子のみを使用します。
- **[MIC INPUT]**: マイク入力端子です。内蔵アンプを通して出力されます。
- **[GAIN]**: マイク入力信号のゲインを調節します。

 **警告**

これらの端子は外からは見えません。使用するためには本機背面の木製パネルを取り外す必要があります。専門のスタッフにご相談ください。

4. 電源を入れる/メイン画面

本機の電源を入れると、手鍵盤セクションのインジケーターが順番に点灯し、オープニング画面が表示されます。数秒後に以下のメイン画面が表示されると、本機は使用可能になります。

TUNING	SET-UP
VOICES	UTIL. & MIDI
STYLES	FILE MANAG.
EQUAL	BAROQUE
ENSEMBLE 3	T.TOUCH NO
AIRPRESS --	K.INV NO
A: 440.00 HZ	TRANSP --

メイン画面の上段には、本機のさまざまな設定メニューが表示されます。

TUNING	チューニング(調律)の設定(19ページ参照)
VOICES	ボイス(音色)の設定(21ページ参照)
STYLES	オルガンスタイルの設定(20ページ参照)
SET-UP	オルガン全体の設定、イコライザーの設定、オーディオ出力の設定など(25ページ参照)
UTIL. & MIDI	ユーティリティ機能/MIDIインターフェースの設定(29ページ参照)
FILE MANAG.	ファイルの管理(30ページ参照)

設定メニューに入るには、[FIELD▲]/[FIELD▼]ボタンでカーソルを必要な項目に合わせ(カーソルを合わせた項目は反転表示します)、[ENTER]ボタンを押します。メイン画面に戻るには、[EXIT]ボタンを押します。

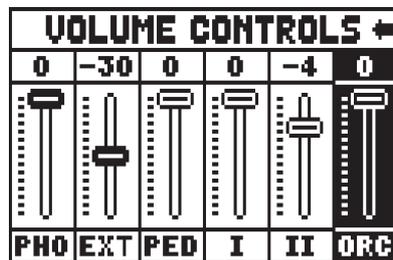
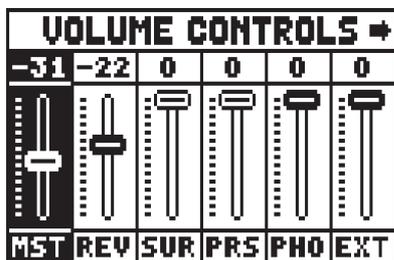
メイン画面の下段には、本機の現在の設定内容が表示されます。

左上の表示 (上図で「EQUAL」と表示されている部分)	テンペラメント(古典調律法)の設定(TUNINGメニュー)
ENSEMBLE	チューニング誤差のシミュレート設定(TUNINGメニュー)
AIRPRESS	空気圧のシミュレート設定(TUNINGメニュー)
A	A4の周波数でのピッチ設定(TUNINGメニュー)
右上の表示 (上図で「BAROQUE」と表示されている部分)	オルガンスタイルの設定(STYLESメニュー)
T.TOUCH	トラッカータッチ機能の設定(UTILITY AND MIDIメニュー)
K.INV	手鍵盤反転機能の設定(UTILITY AND MIDIメニュー)
TRANSP	移調の設定(TUNINGメニュー)

これらは設定内容を表示しているだけです。設定はそれぞれのメニューに入って変更してください。

5. ボリュームの調節 (VOLUME CONTROLS機能)

オルガンの各セクション間や外部/内蔵アンプ間での音量バランスを調節できます。
音量を調節するには、[VOLUMES] ボタンを押します。



以下の音量を調節できます。

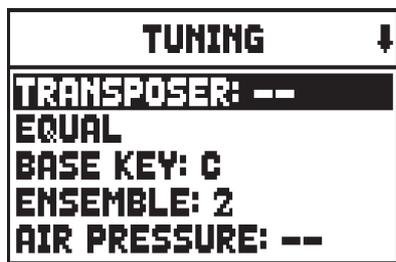
MST	オルガン全体の音量を調節します。フロント接続パネルの[MASTER VOLUME]つまみでも調節できます。
REV	残響効果の音量を調節します。フロント接続パネルの[REVERB VOLUME]つまみでも調節できます。
SUR	サイドスピーカーの音量を調節します。より大きな音場にいるような効果を得られます。
PRS	フロントスピーカーの音量を調節します。自然で詳細、かつダイナミックなパイプオルガンのサウンドを生成します。
PHO	フロント接続パネルの[PHONES]端子からの音量を調節します。
EXT	リア接続パネルの[PROG. OUT]端子からの音量を調節します。
PED	足鍵盤の音量を調節します。
I	第 I 手鍵盤の音量を調節します。
II	第 II 手鍵盤の音量を調節します。
ORC	オーケストラボイスの音量を調節します。

前の画面に戻るには、[EXIT] ボタンを押します。または、4秒間何も操作しないと前の画面に戻ります。

6. 本機のチューニング (TUNINGメニュー)

本機のさまざまな調律を変更できます。

TUNINGメニューにアクセスするには、メイン画面で「TUNING」を選択します。



以下の項目を設定できます。

TRANSPOSER	半音単位で移調します。設定範囲は「-6」～「+5」です。
EQUAL	EQUAL (平均律) 以外に、さまざまな時代や地域の歴史的なテンペラメント (古典調律法 17 種類) の設定を変更します。
BASE KEY	古典調律を構成する 12 音の五度環が始まる音を設定します。
ENSEMBLE	オルガンのパイプとパイプの間の微妙なピッチのずれのレベルを設定します。年月とともに進行する摩耗や温度変化によって自然に発生するチューニングの誤差をシミュレートしたものです。設定範囲は「-」(パイプのチューニングが完全に合っている状態)～「8」(ピッチの差異が最大の状態)です。
AIR PRESSURE	短時間で大量の空気が必要な場合 (例: トウッティで大きな和声を演奏した場合) の空気圧の低下をシミュレートします。空気圧の低下により、一時的にピッチがゆっくり下がります。この現象は長く、太いパイプ (フルート、ブルドン、プリンシパル) のほうが顕著に現れます。
PITCH(A)	ピッチを微調整します。A4 (8' パイプ) の周波数で表示されます。工場出荷時は 440.00Hz に設定されています。

メイン画面に戻るには、[EXIT] ボタンを押します。

メモ:

- 本機の電源を入れたとき、移調設定は常に「0」に戻ります。
- 移調設定は、本機の内蔵シーケンサーのソング再生にははたらきません (ただし録音時には、現在の移調設定で録音されます)。移調して曲を再生したいときは、必要に応じて専用のトランスポージャーを使用します (35 ページ参照)。

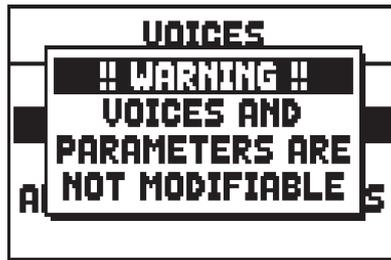
7. オルガンスタイルの設定 (STYLESメニュー)

オルガンのストップのスタイルを選択できます。

STYLESメニューにアクセスするには、メイン画面で「STYLES」を選択します。

各スタイルはボイスと関連のパラメーターが設定されており、演奏するレパートリーに合ったボイスを使用できます。オルガンには8つのスタイルがあり、いずれかを選べます。

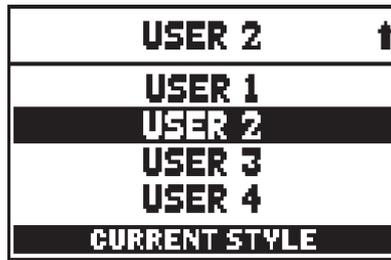
最初の4つはプリセットスタイルです。プリセットスタイルは工場出荷時にプログラムされており、ユーザーによる内容の変更はできません。プリセットスタイルを選択した状態でVOICESメニューにアクセスすると、ディスプレイに下図のような警告メッセージが表示されます。



プリセット (4種)
Modern
Baroque
Romantic
Symphonic

プリセットスタイルの設定を確認することはできません。ディスプレイのボタンを押し続けるか、3秒ほどお待ちください。

残りの4つのスタイルはユーザースタイルです。ユーザースタイルはお好みのスタイルに沿って自由にボイスを変更し、カスタマイズできます。



ユーザースタイル (4種)
USER 1
USER 2
USER 3
USER 4

メイン画面に戻るには、[EXIT] ボタンを押します。

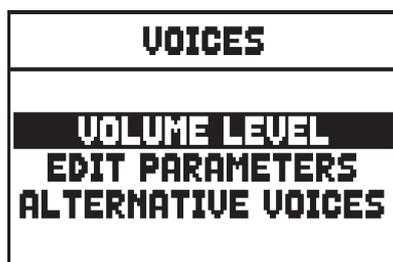
8. ボイスの選択/調整 (VOICESメニュー)

本機の音源に使用されている Physis(フィシス)という新しい技術により生み出された、さまざまな種類のオルガンボイスの中から選び、自分だけのお好みの音色を持つオルガンにすることができます。また、数種類のパラメーターを使って調節すればさらに音色を増やすことが可能になります。

VOICESメニューにアクセスするには、メイン画面で「VOICES」を選択します。

メモ:

- プリセットスタイルが選択されているときは、各パラメーターは調節できません。パラメーターを調節するためには、ユーザースタイルを選択してください。
- それぞれのスイッチまたはドロップで選択されたボイスの特性や音量は、選択されている現在のスタイルに自動的に保存されます。別のスタイルが呼び出されたときには、そのスタイルで設定されたパラメーターにリセットされます。前に設定したパラメーターは保存されていますので、再び同じスタイルを呼び出したときに復元されます。



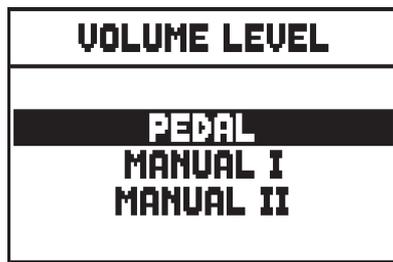
以下の項目を設定できます。

VOLUME LEVEL	各ボイスの音量を調節します。
EDIT PARAMETERS	各ボイスのパラメーターを設定します。
ALTERNATIVE VOICES	交換ボイスを選択します。

8.1 ボリュームの調節 (VOLUME LEVEL機能)

オルガンの各鍵盤セクション内のボイスごとに音量を調節できます。

VOLUME LEVEL機能にアクセスするには、VOICESメニュー画面で「VOLUME LEVEL」を選択します。



[FIELD▲]/[FIELD▼]ボタンで音量を調節したいボイスが含まれる鍵盤セクションを選択し、[ENTER]ボタンを押します。選択した鍵盤セクション内のボイス名と音量が表示されます。

The image shows a screen titled 'PEDAL VOICES VOL. ↓'. It displays a list of organ voices and their current volume levels in dB.

VOICE	VOLUME
Subbas 32	0 dB
Bourdon 16 A	0 dB
Prestant 16A	0 dB
Gedekt 8	0 dB
Octaaf 8	0 dB

[FIELD▲]/[FIELD▼]ボタンで音量を調節したいボイスを選択し、[ENTER]ボタンを押します。[VALUE +]/[VALUE -]ボタンで選択したボイスの音量を調節します。

メモ:

VOICESメニュー画面で「VOLUME LEVEL」を選択した状態で、音量を調節したいボイスのドローノブを引き続ける、またはタブレットスイッチを長押しして、音量を調節することもできます。

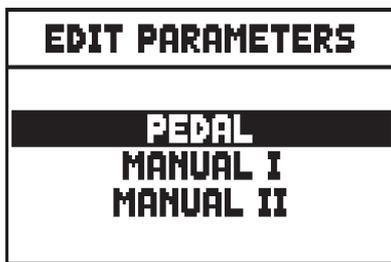
エラーを防ぐため、音量を調節している音色ストップのインジケーターが点滅します。調節している間はストップがオンの状態になるため、鍵盤を演奏しながら正確かつ迅速に音量を調節できます。ほかのストップも同様にオンにすれば、設定が全体的にどのような効果を及ぼすか確認できます。

設定を終了してVOICESメニュー画面に戻るには、[EXIT]ボタンを押します。

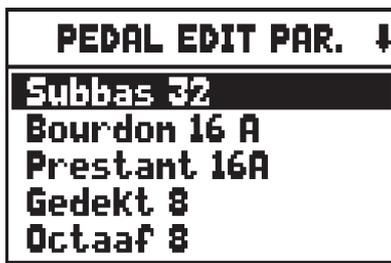
8.2 パラメーターの設定 (EDIT PARAMETERS機能)

各ボイスの音源を細かく設定できます。

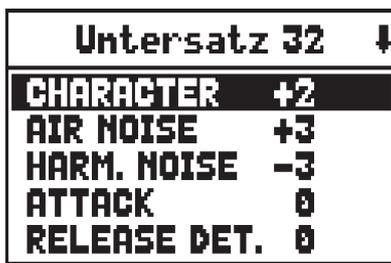
EDIT PARAMETERS機能にアクセスするには、VOICESメニュー画面で「EDIT PARAMETERS」を選択します。



[FIELD▲]/[FIELD▼]ボタンで設定したいボイスが含まれる鍵盤セクションを選択し、[ENTER]ボタンを押します。選択した鍵盤セクション内のボイス名が表示されます。



[FIELD▲]/[FIELD▼]ボタンで設定したいボイスを選択し、[ENTER]ボタンを押します。各ボイスのパラメーターが表示されます。



[FIELD▲]/[FIELD▼]ボタンで音量を設定したいパラメーターを選択し、[ENTER]ボタンを押します。[VALUE +]/[VALUE -]ボタンで選択したパラメーターの設定を変更します。

以下のパラメーターを設定できます。設定できるパラメーターはボイスにより異なります。

CHARACTER	ハーモニーの豊かさを調節します。
AIR NOISE	パイプ内を通る空気が起こすノイズ音量を調節します。
REED NOISE	リードの振動による発音の微妙なズレの量を調節します。
ATTACK	音が最大音量に達するまでの時間を調節します。
REL. DETUNE	リリース時の音程変化の量を調節します。
FREQ. SKEW	アタックとリリースの間に起こるエアーのピッチ変化の量を調節します。
DETUNE	音程変化により発生するボイス振動の量を調節します。
DETUNE TYPE	ビート周波数(うなり)のタイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ A:ビート周波数は鍵盤の範囲全体でほぼ一定です。 ・ B:ビート周波数は鍵盤の上部に向かってゆっくり早くなります。 ・ C:ビート周波数は鍵盤の上部に向かって著しく早くなります。
KEYB. LO LEV.	手鍵盤の低音域の音量を調節します。
KEYB. HI LEV.	手鍵盤の高音域の音量を調節します。
TREMULANT	第1トレモロまたは第2トレモロを選択します。選択されたトレモロは専用のストップに登録された音源が再生されたときにはたります。

メモ:

VOICESメニュー画面で「EDIT PARAMETERS」を選択した状態で、設定を変更したいボイスのドロップを引き続ける、またはタブレットスイッチを長押しして、設定を変更することもできます。

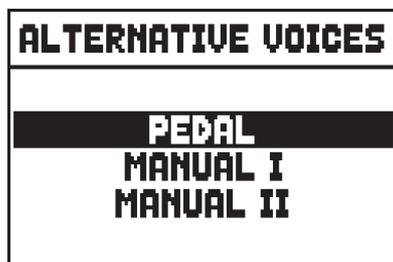
エラーを防ぐため、設定を変更している音色ストップのインジケーターが点滅します。設定している間はストップがオンの状態になるため、鍵盤を演奏しながら正確かつ迅速に設定を変更できます。ほかのストップも同様にオンにすれば、設定が全体的にどのような効果を及ぼすか確認できます。

設定を終了してVOICESメニュー画面に戻るには、[EXIT]ボタンを押します。

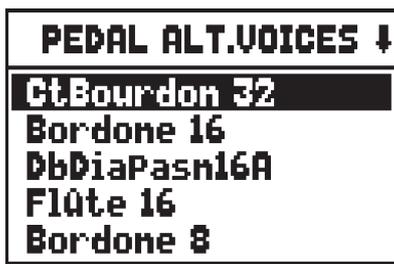
8.3 交換ボイスの選択 (ALTERNATIVE VOICES機能)

各鍵盤セクション内の音色ストップには、現在使用しているスタイルのデフォルトボイスと、オリジナルバリエーションである交換ボイスがあり、ALTERNATIVE VOICES機能で選択できます。

ALTERNATIVE VOICES機能にアクセスするには、VOICESメニュー画面で「ALTERNATIVE VOICES」を選択します。



[FIELD ▲]/[FIELD ▼]ボタンで置き換えたいボイスが含まれる鍵盤セクションを選択し、[ENTER]ボタンを押します。選択した鍵盤セクション内のボイス名が表示されます。



[FIELD▲]/[FIELD▼] ボタンで置き換えたいボイスを選択し、[ENTER] ボタンを押します。交換ボイスの一覧が表示されます。



現在のボイスを選択しているときは、画面下部に「CURRENT VOICE」と表示されます。ほかのボイスを選択すると、画面下部の表示が「ENTER TO REPLACE」に変わります。



[FIELD▲]/[FIELD▼] ボタンで交換ボイスを選択します。この状態で選択した交換ボイスで試奏できます。[ENTER] ボタンを押すと、ボイスが置き換えられます。

メモ:
 VOICESメニュー画面で「ALTERNATIVE VOICES」を選択した状態で、設定を変更したいボイスのドローノブを引き続ける、またはタブレットスイッチを長押しして、交換ボイスの設定画面を直接表示することもできます。

エラーを防ぐため、ボイスが置き換えられる音色ストップのインジケーターが点滅します。設定している間はストップがオンの状態になるため、鍵盤を演奏しながら正確かつ迅速に設定を変更できます。ほかのストップも同様にオンにすれば、設定が全体的にどのような効果を及ぼすか確認できます。

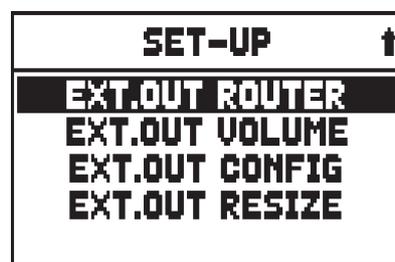
ほかのボイスを置き換える、または設定を終了してVOICESメニュー画面に戻るには、[EXIT] ボタンを押します。

メモ:
 交換ボイスに置き換えると、EDIT PARAMETERS機能で変更したパラメーター設定は、自動的に新しいボイスの初期設定にリセットされます。VOLUME LEVEL機能で調節した音量の設定は変更されません。

9. 一般設定 (SET-UPメニュー)

SET-UPメニューを使って本機の機能を設定できます。

SET-UPメニューにアクセスするには、メイン画面で「SET-UP」を選択します。



以下の項目を設定できます。

1st TREMULANT	各手鍵盤の第1トレモロの速さと深さを設定します。
2nd TREMULANT	各手鍵盤の第2トレモロの速さと深さを設定します。
REVERBERATION	室内規模ごとに残響効果を設定します。
INT. AMPL. EQUALIZER	内蔵アンプの5つのイコライザーを調節します。
INT. AMPL. PANNING	内蔵アンプの各ストップのステレオ設定を変更します。各ストップのさまざまな風箱のタイプのシミュレーションが可能です。
INT. AMPL. TUNE-UP	サイドスピーカーへの信号のステレオ分配を設定します。
PROG. FUNCTIONS	コンビネーション、ボタン、クレッシェンド、トリマーの機能を設定します。
ENC. CONFIGURATION	[ENC] ボタンの機能を設定します。
EXT. OUT EQUALIZER	リア接続パネルの[PROG. OUT]端子のイコライザーを調節します。
EXT. SUB EQUALIZER	リア接続パネルの[GEN. SUB OUT]端子のイコライザーを調節します。
EXT. OUT ROUTER	リア接続パネルの[PROG. OUT]端子のストップルーティングを設定し、風箱の位置やパイプアレンジをシミュレートします。
EXT. OUT VOLUME	リア接続パネルの[PROG. OUT]端子の音量を調節します。
EXT. OUT CONFIG	リア接続パネルの[PROG. OUT]端子の機能を設定します。
EXT. OUT RESIZE	ストップとリア接続パネルの[PROG. OUT]端子間のリンクを出力量に合わせて自動的に適応させます。

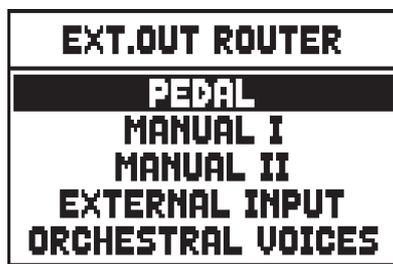
各項目の設定メニューに入るには、[FIELD▲]/[FIELD▼]ボタンでカーソルを項目に合わせ(カーソルを合わせた項目は反転表示します)、[ENTER]ボタンを押します。SET-UPメニューを終了するには、[EXIT]ボタンを押します。

9.1 オーディオ出力のルーティング設定 (EXT. OUT ROUTER機能)

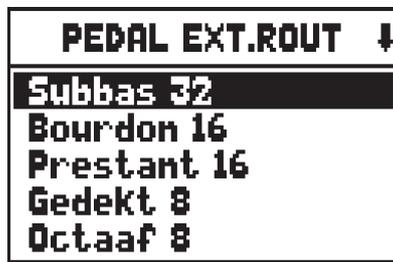
Sonusシリーズでは、ストップ毎に内部の風箱の位置とパイプレイアウトのシミュレーションが可能です。リア接続パネルのどの出力端子から出力するかを設定し、オーディオ信号のルーティング設定をするとシミュレーションを実行できます。各ストップにおいて風箱上のパイプレイアウトを決める出力構成を次のように設定できます。

- シングルまたはダブルカスプ
- ダブルウィング
- 左または右ウィング
- モノラル
- オルタネートキー(変調)

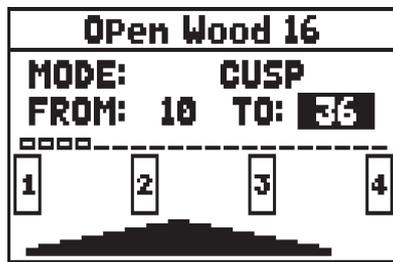
さらに、パイプレイアウトは使用する出力の数により、風箱の幅と位置を指定することもできます。EXT. OUT ROUTER機能にアクセスするには、SET-UPメニュー画面で「EXT. OUT ROUTER」を選択します。



[FIELD▲]/[FIELD▼]ボタンで設定を変更したいストップが含まれるセクションを選択し、[ENTER]ボタンを押します。セクション内のボイス名が表示されます。



[FIELD▲]/[FIELD▼]で設定を変更したいストップを選択し、[ENTER]ボタンを押します。設定画面が表示されます。



設定画面は4つのセクションから構成されています。

<p>MODE</p>	<p>風箱のタイプを選びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • C-C#(変調) • MONO(モノラル) • DOUBLE CUSP(ダブルカスプ) • CUSP(カスプ) • DOUBLE WING(ダブルウィング) • WING(ウィング)
<p>FROM/TO</p>	<p>出力の範囲内で風箱が配置される場所を指定します。値は「出力番号」と「2つの出力の間の位置番号」にて設定します。</p> <p>ひとつの出力と次の出力の間には、4つの位置番号があります(ディスプレイ上では2-4-6-8)。「20」という値は範囲(FROMまたはTO)の端が出力[2]にあることを意味し、「32」という値は、範囲(FROMまたはTO)の端は出力[3]と[4]の中間にあり、出力[3]に近い方にあるという意味です。それは、出力[3]と出力[4]の間は5等分されており、5分の1の位置であることを意味しているからです。</p> <p>上の画面は、風箱のピークの位置が、出力[1]と、出力[3]と[4]の中間点、の間に配置されていることを示しています。</p>
<p>ポジションインジケータ</p>	<p>風箱の絵の上にある小さな長方形は、出力の合計数と全出力の中でどこに位置しているかを示しています。</p>
<p>風箱と出力</p>	<p>画面の下部には、風箱と使用中の出力が図として表示され、風箱の位置情報と設定によって送り出される出力からの音の状態を視覚的に確認できます。</p>

[FIELD ▲]/[FIELD ▼]で設定したいパラメーターを選択し、[VALUE +]/[VALUE -]ボタンで選択したパラメーターの設定を変更します。

メモ:

SET-UPメニュー画面で「EXT. OUT ROUTER」を選択した状態で、設定を変更したいストップのドロノブを引き続ける、またはタブレットスイッチを長押しして、設定を変更することもできます。

エラーを防ぐため、設定を変更している音色ストップのインジケータが点滅します。設定している間はストップがオンの状態になるため、鍵盤を演奏しながら正確かつ迅速に設定を変更できます。ほかのストップも同様にオンにすれば、設定が全体的にどのような効果を及ぼすか確認できます。

別のストップの設定を表示するには、そのストップのドロノブを引き続ける、またはタブレットスイッチを長押しするか、[EXIT]ボタンを押して設定を終了します。いずれの場合も変更した設定は自動的に保存されます。

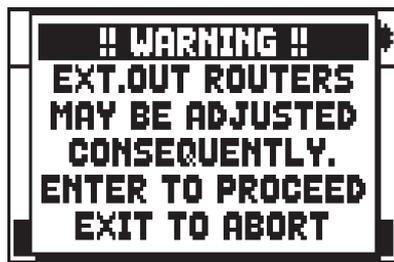
9.2 オーディオ出力の設定 (EXT. OUT CONFIG機能)

この機能を使えばプログラム出力が可能になり、アンティフォナル信号 (AMPLIFICATIONタブで操作)、ジェネラルシグナルやリバーブシグナルの操作が容易にできるようになります。

EXT. OUT CONFIG機能にアクセスするには、SET-UPメニュー画面で「EXT. OUT CONFIG」を選択します。



[VALUE +]/[VALUE -] ボタンでお好みの設定を選択します。新しい設定を選択すると、以下の警告画面が表示されま
す。



これはいくつかのストップのルーティング設定(9.1章参照)が同時に変更されることを意味します。
出力[2]と[3]の間に位置するストップ(4系統の出力を持つオルガンの場合)で、または出力[8]と[9]の間に位置するス
トップ(12系統の出力を持つオルガンの場合)で、出力を「GENERAL」か「REVERB」に設定した場合、ルーティング設定
された最初の出力はモノラルに変更されます。

設定を確定する場合は[ENTER]ボタンを、設定を中止する場合は[EXIT]ボタンを押します。

なお、モードにおける機能は以下のとおりです。

4系統の出力を持つオルガンの場合

モード	出力 1/2	出力 3/4
STANDARD	EXT. OUT ROUTER 機能で 設定した内容	EXT. OUT ROUTER 機能で 設定した内容
GENERAL-REVERB	ジェネラルシグナル	リバーブシグナルのみ

12系統の出力を持つオルガンの場合(拡張キット使用時)

モード	出力 1 ~ 8	出力 9/10	出力 11/12
STANDARD	EXT. OUT ROUTER 機能で 設定した内容	EXT. OUT ROUTER 機能で 設定した内容	EXT. OUT ROUTER 機能で 設定した内容
GENERAL-REVERB	EXT. OUT ROUTER 機能で 設定した内容	ジェネラルシグナル	リバーブシグナルのみ
ANTIPHONAL	EXT. OUT ROUTER 機能で 設定した内容	EXT. OUT ROUTER 機能で 設定した内容	EXT. OUT ROUTER 機能で 設定した内容
GENERAL-ANTIPH.	EXT. OUT ROUTER 機能で 設定した内容	ジェネラルシグナル	EXT. OUT ROUTER 機能で 設定した内容
ANTIPH.-REVERB	EXT. OUT ROUTER 機能で 設定した内容	EXT. OUT ROUTER 機能で 設定した内容	リバーブシグナルのみ

注意:

4系統の出力を持つオルガンで、EXT. OUT CONFIG機能で「GENERAL-REVERB」を選択した場合は、出力ルーティングの設定が
できません。

10. ユーティリティ /MIDIの設定 (UTILITY AND MIDIメニュー)

本機のさまざまなユーティリティ機能やMIDIインターフェースの設定を変更できます。
UTILITY AND MIDIメニューにアクセスするには、メイン画面で「UTIL. & MIDI」を選択します。

UTILITY AND MIDI ↓
KEYBOARDS INV: NO
TRACKER TOUCH: NO
1st SHORT OCTAVE
AUTO MAINPAGE: NO
LCD CONTRAST: 6

UTILITY AND MIDI ↓
LCD CONTRAST: 8
SET DATE & TIME
LOCK ORGAN
RESTORE FACT. SET
OP.SYS. UPGRADE

UTILITY AND MIDI ↑
Tx AND Rx CHANNEL
Tx AND Rx FILTER
PROG. CHANGE SEND
PEDAL/KEYB TOUCH
COUPLED NOTES: YES

以下の項目を設定できます。

■ユーティリティ

KEYBOARDS INV.	手鍵盤反転機能のオン/オフを切り替えます。 「YES」を選択すると、第 I 手鍵盤のストップを第 II 手鍵盤で、または第 II 手鍵盤のストップを第 I 手鍵盤で演奏できるように手鍵盤を反転させます。
TRACKER TOUCH	トラッカータッチ機能のオン/オフを切り替えます。 「YES」を選択すると、アタックタイムに影響を及ぼす、典型的なオルガンのメカニズムであるトラッカータッチをシミュレーションします。アタックタイムはフルパイプでのみ遅延し、リリースはすべてのストップで遅延します。
1st SHORT OCTAVE	ショートオクターブ機能のオン/オフを切り替えます。 「YES」を選択すると、手鍵盤および足鍵盤の第 1 オクターブをショートオクターブにします。16～18世紀頃のオルガン用に作曲された楽曲を演奏するときが必要です。
AUTO MAINPAGE	オートメインページ機能のオン/オフを切り替えます。 「YES」を選択すると、ディスプレイを 10 秒以上使用しない場合、自動的にメイン画面に戻ります。
LCD CONTRAST	ディスプレイのコントラストを調節します。
SET DATE & TIME	日付と時間を設定します。
LOCK ORGAN	SET-UPメニュー画面へのアクセス防止、およびコンビネーション、トゥッティ、クレッシェンドの保護のため、オルガンをロックする暗証コードを設定します。
RESTORE FACT. SET	工場出荷時の初期設定にリセットします。
OP. SYS. UPGRADE	オペレーティングシステムのアップデートとバージョン確認を行ないます。

■MIDI

Tx AND Rx CHANNEL	MIDI送信/受信チャンネルを設定します。
Tx AND Rx FILTER	データ送受信時のMIDIフィルターを設定します。
PROG. CHANGE SEND	MIDIプログラムチェンジおよびバンクセレクトメッセージを送信します。
PEDAL/KEYB TOUCH	オーケストラボイスを使用するための手鍵盤のダイナミックカーブを選択し、MIDIノートを送信します。
COUPLED NOTES	MIDIで送信するノートを選択します。 「YES」を選択すると、実際に手鍵盤上で弾いたノートと、カブラーをかけたノートの両方を送信します。 「NO」を選択すると、実際に弾いたノートのみが送信されます。 例) II /Pのカブラーをかけて足鍵盤を弾いた場合 「YES」選択時: 足鍵盤からのノートが足鍵盤のMIDIチャンネルと第 II 手鍵盤のMIDIチャンネルの両方で送信されます。 「NO」選択時: 足鍵盤からのノートが足鍵盤のMIDIチャンネルのみで送信されます。

メイン画面に戻るには、[EXIT] ボタンを押します。

11. ファイルの管理 (FILE MANAGERメニュー)

本機では、内蔵メモリーとUSBメモリーの2種類のメモリーを使って、オルガン設定や曲の情報、曲のリストを保存できます。また、FILE MANAGERメニューでは本機のファームウェアに関する情報を表示することもできます。FILE MANAGERメニューにアクセスするには、メイン画面で「FILE MANAG.」を選択します。



画面の下段には、現在使用しているメモリーが表示されます。

INTERNAL MEMORY	内蔵メモリーを使用しています。
USB STICK DRIVE	フロント接続パネルの[USB]端子に接続したUSBメモリーを使用しています。

以下の機能を使用できます。

DIR	メモリーに保存されているファイルのリストを表示します。
LOAD	メモリーに保存されているファイルを読み込みます。
SAVE	オルガン設定や曲の情報などをメモリーに保存します。
COPY	ファイルを別のメモリーにコピーします(例:内蔵メモリーからUSBメモリーへ)。
RENAME	メモリーに保存されているファイル名を変更します。
DELETE	メモリーに保存されているファイルを削除します。
SONGLIST	曲のリストを作成します。
O.S. INFO	本機のファームウェアのバージョンを表示します。

メイン画面に戻るには、[EXIT] ボタンを押します。

メモ:

- USBメモリーを挿入してから、FILE MANAGERメニューが表示されるまで数秒お待ちください。
- コンピューターを使用して USB メモリーに保存したファイルの名前を変更する場合は、数字と小文字のアルファベットのみを使用してください。
- USB メモリーは、FAT または FAT32 ファイルシステムにフォーマット済みのものを使用してください(NTFS は使用できません)。
- USBメモリーが挿入されている場合は、本機は優先的にUSBメモリーを使用します。このとき、ファイルのコピー(内蔵メモリーからUSBメモリーへ、またはUSBメモリーから内蔵メモリーへ)はできますが、内蔵メモリーへのファイルの読み込みや、内蔵メモリーに保存されたファイルの削除、名前の変更はできません。内蔵メモリーの内容を変更するには、USBメモリーを外してから行ってください。

12. 再生と録音 (SEQUENCER機能)

本機にはシーケンサー(デジタルレコーダー)が内蔵されています。シーケンサーはオルガンで演奏した曲と使用したコントロール類、[MIDI IN]端子で受信したMIDIデータを記録できます。この録音は内部メモリまたはUSBメモリにMIDIファイルとして保存され、いつでも再生することができます。

シーケンサーを呼び出すには、[SEQUENC.]ボタンを押します。



以下の機能を利用できます。

PLAY	内部メモリまたはUSBメモリに保存された演奏を再生します。
PLAY OPTIONS	曲の再生のためのオプションを設定します(35ページ参照)。
RECORD	演奏曲を録音します(32ページ参照)。

画面下部には現在使用されているメモリが表示されます。内部メモリよりUSBメモリの方が優先されるため、内部メモリを使用するには先にUSBメモリを外す必要があります。

メモ:

- USBメモリを挿入し、数秒待ってからシーケンサーを呼び出してください。
- TUNING メニューで設定されたトランスポジションは、曲の再生の際には無効になります(録音時には、トランスポジションが有効になります)。シーケンサーのトランスポジションを設定するには、12.3章を参照してください。

12.1 曲の再生 (PLAYモード)

SEQUENCER画面で「PLAY」を選択します。現在使用中のメモリに保存されたMIDIファイルが表示されます。



[FIELD▲]/[FIELD▼]ボタンで再生するMIDIファイルを選択します。



PLAYモードでは以下のボタンが使用できます。

[ENTER]	曲の再生を開始します。
[EXIT]	PLAYモードを終了します。
[FIELD▲]	メモリー内またはソングリスト(12.4章参照)内で前の曲を選択します。
[FIELD▼]	メモリー内またはソングリスト(12.4章参照)内で次の曲を選択します。
[VALUE-] (1回押し)	再生速度を遅くします(画面の最上段に、元の速度を100としてパーセントで表示します)。
[VALUE+] (1回押し)	再生速度を速くします(画面の最上段に、元の速度を100としてパーセントで表示します)。
[VALUE-](長押し)	巻き戻します。
[VALUE+](長押し)	早送りします。



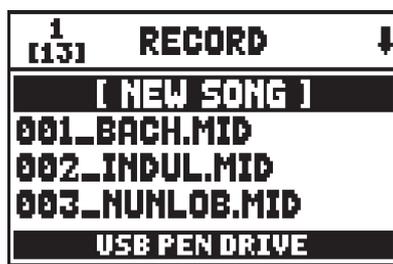
曲の再生中は[ENTER]ボタンおよび[EXIT]ボタンの機能が、下記のように変わります。

[ENTER]	曲の再生を一時停止/再開します。
[EXIT]	曲の再生を停止します。

[FIELD▲]/[FIELD▼]ボタン、[VALUE+]/[VALUE-]ボタンの機能は変わりません。

12.2 曲の録音 (RECORDモード)

SEQUENCER画面で「RECORD」を選択します。次の画面が表示されます。



新たに曲を録音するには、[NEW SONG]を選択します。

ほかのMIDIファイルを選択してオーバーダビングしたり、すでに録音された演奏に新たな録音を追加したりすることもできます。



RECORDモードでは以下のボタンが使用できます。

[ENTER]	録音を開始します。
[EXIT]	RECORDモードを終了します。



曲の録音中は[ENTER]ボタンおよび[EXIT]ボタンの機能が、下記のように変わります。

[ENTER]	録音を一時停止/再開します。
[EXIT]	録音を停止します。

[EXIT]ボタンを押して録音を終了すると、録音を保存するための画面が表示されます。



以下の機能を利用できます。

SAVE	録音をMIDIファイルとして保存します。
PLAY	録音を保存する前に再生します。
OVERDUB	呼び出した曲に新たな録音を加えます。
DISCARD AND EXIT	録音を削除し、RECORDモードを終了します。

「SAVE」を選択すると、保存するMIDIファイルの名前を入力する画面が表示されます。



[VALUE+]/[VALUE-]ボタンで文字を選択し、[FIELD▲]/[FIELD▼]ボタンでカーソルを移動します。最初の3文字に入力できるのは数字のみです。

文字の入力が終了したら[ENTER]ボタンを押してファイルを保存します。中止する場合は[EXIT]ボタンを押します。ファイルが保存されると下記の確認メッセージが表示されます。



SAVE画面で[EXIT]ボタンを押した場合(録音を保存していない場合)、録音が削除されることを警告するメッセージが表示されます。



[ENTER]ボタンを押すと、録音した内容を削除して終了します。[EXIT]ボタンを押すと、SAVE画面に戻ります。

メモ:

コンピューターを使用してUSBメモリーに保存されたファイルの名前を変更する場合、名前に使用できるのは数字とアルファベットの小文字だけです。

12.3 シーケンサー再生オプション (PLAY OPTIONSモード)

SEQUENCER画面で「PLAY OPTIONS」を選択すると、曲の再生時に利用できるオプションが表示されます。

PLAY OPTIONS	
TRANSPOSER:	--
SONG LOOP:	OFF
LIST AUTOPLAY:	OFF
LIST LOOP:	OFF

以下の機能を利用できます。

TRANSPOSER	シーケンサーで再生する曲の移調を半音単位で設定します。
SONG LOOP	「YES」に設定すると、曲が終了したときに再び同じ曲を再生します。
LIST AUTOPLAY	「YES」に設定すると、ソングリスト機能の使用時、曲が終了したときに [FIELD ▼] ボタンを押さなくても自動的に次の曲が再生されます。
LIST LOOP	「YES」に設定すると、ソングリストの最後の曲が終了したときに自動的に最初の曲が再生されます。

12.4 ソングリスト (SONGLIST機能)

再生したい曲(MIDIファイル)のリストを作成し、保存することができます。曲のリストを作成するには、FILE MANAGERメニューで「SONG LIST」を選択します。新規のソングリストを作成するか、既存のソングリストを編集するかを選択するメッセージが表示されます。

1	SONG LIST	↓
[6]		
[NEW LIST]		
000_LIST1.LST		
001_LIST2.LST		
002_LIST3.LST		
USB PEN DRIVE		

新たにソングリストを作成するには、[NEW LIST]を選択します。既存のリスト(LSTファイル)を選択して編集することもできます。

1	SONG LIST	↓
[12]		
000_BACH	02	
001_INDUL		
002_NUNLOB	01	
003_NUNFREU		
PRESS +/- TO SELECT		

曲をリストに追加するには、[FIELD ▲]/[FIELD ▼]ボタンで曲を選択し、[VALUE +]ボタンでリストに追加します。曲をリストから削除するには、[FIELD ▲]/[FIELD ▼]ボタンで曲を選択し、[VALUE -]ボタンでリストから削除します。リスト内の曲順は、ファイル名の横に番号で表示されます。

曲の選択が終了したら [ENTER] ボタンを押してリスト作成を続けます。中止する場合は [EXIT] ボタンを押します。
[EXIT] ボタンを押した場合、リスト作成を終了することを警告するメッセージが表示されます。



[ENTER] ボタンを押すと、リスト作成を終了します。[EXIT] ボタンを押すと、前の画面に戻ります。
次に、リスト内の曲順を変更します。



曲順を変更するには、[FIELD▲]/[FIELD▼] ボタンで曲を選択し、[VALUE +]/[VALUE -] ボタンで順番を前後に移動します。

曲順の変更が終了したら [ENTER] ボタンを押してリストを保存します。リスト(LSTファイル)の名前を入力する画面が表示されます。



[VALUE +]/[VALUE -] ボタンで文字を選択し、[FIELD▲]/[FIELD▼] ボタンでカーソルを移動します。最初の3文字に入力できるのは数字のみです。

文字の入力が終了したら [ENTER] ボタンを押してリストを保存します。中止する場合は [EXIT] ボタンを押します。

メモ:

コンピューターを使用してUSBメモリーに保存されたファイルの名前を変更する場合、名前に使用できるのは数字とアルファベットの小文字だけです。

13. 付録

13.1 ストップのローカルオフ

ローカルオフモードに設定されたストップは、本機の内蔵音源では再生されませんが、MIDIメッセージ(システムエクスクルーシブコード)が送信されるため、接続された楽器での演奏が可能になります。

ストップをローカルオフモードに設定するには、メイン画面を表示させ、[S] ボタンを押しながら[C] ボタンを押します。すべてのストップのインジケータが点灯し、次の画面が表示されます。



ボイスをローカルオフモードに設定するにはタブレットスイッチを押してインジケータを消します。希望する設定の状態で、[S] ボタンおよび[C] ボタンを同時に押して保存します。

このあとローカルオフ設定機能にアクセスすると、ストップのインジケータでローカルオフ機能の状態が表示されます。

- 点灯しているインジケータ: ストップはローカルオンモードに設定されています(内部音源で再生されます)。
- 点灯していないインジケータ: ストップはローカルオフモードに設定されています。

13.2 工場出荷時の設定

本機の設定を工場出荷時の状態に復元し、ユーザーによる変更をすべてリセットすることができます。本機では工場出荷時の初期設定にリセットする項目を選択できます。

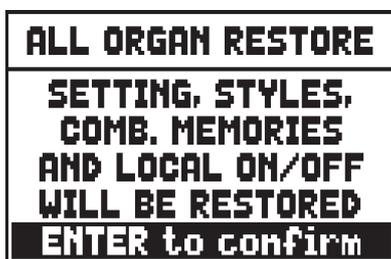
工場出荷時の初期設定にリセットするには、UTILITY AND MIDIメニューで「RESTORE FACT. SET」を選択します。



どの設定をリセットするか選択します。

ENTIRE ORGAN	すべてのオルガン設定をリセットします。
SETTING PARAMETERS	TUNINGメニュー、SET-UPメニュー、UTILITY AND MIDIメニューの設定をリセットします。
USER STYLES	4つのユーザースタイルをリセットします。
COMB. MEMORIES	すべてのジェネラルコンビネーション、トゥッティ、クレッシェンドの設定をリセットします。

リセットする設定を選択して[ENTER]ボタンを押すと、リセットされる項目を示すメッセージが表示されます。



もう一度[ENTER]ボタンを押すと、リセットが開始されます。リセット中は「PERFORMING」のメッセージが表示され、完了すると「ACCOMPLISHED」のメッセージが表示されます。[EXIT]ボタンを押して終了します。

14. 製品仕様

基本情報	
手鍵盤 (61鍵、トラッカータッチ)	2段
足鍵盤	32鍵 平行凹型
ストップの形状	タブレット
オーディオ・アンプ	7チャンネル 6×60W + 1×100W
スピーカー	9
エクスプレッションペダル	2
クレッシェンドペダル	△ (エクスプレッションペダルを交換可能)
サステインペダル	○
消費電力 (W)	400
ストップ数と音色	
PEDAL	9
Man. I	12
Man. II	13
合計ストップ数	34
サウンド・スタイル	4プリセット + 4ユーザー
ストップ毎の交換ボイス	○
交換ボイス	○
設定	
メモリーボタン	8
メモリーバンク	16
メモリー送りボタン	○
カブラー	3
トランスポージャー	-6/+5
リバーブプリセット	8種類
古典調律	17種類
アウト・ルーター	○
録音再生機能	○
接続	
MIDI	IN, OUT, THRU
ステレオ・ヘッドフォン端子	○(ST. Phone)
Micイン	○(Phone)
ステレオ・ライン・イン	○(Phone)
マルチ・ライン・アウト	5(Phone)
USBメモリーのデータ保存	○

ステレオ・ライン・インとは、オルガン背面についている端子で、外部音源を入力する端子です。
 マルチ・ライン・アウトはSonus音源の特長で、パイプオルガンのパイプ配列のように出力先を自由に設定できます。
 各端子には、標準Phone型とRCAピン型があり、Phone型の「ST. Phone」はステレオタイプを、「Phone」はモノラルタイプを示します。

デモソングリスト

	作曲者名	曲名
1	Johann Nicolaus Hanff	Choral Prelude Auf meinen lieben Gott
2	Louis Vierne	Berceuse n° 19 from 24 Pièces en Style Libre, Op.31 (Livre 2)
3	César Franck	Cantabile
4	J. S. Bach	Choral Prelude Nun komm' der Heiden Heiland BWV 659
5	J. S. Bach	Choral Prelude Kommst du nun, Jesu, vom Himmel herunter BWV 650
6	Léon Boellmann	Toccata from Suite Gotique
7	J. S. Bach	Vivace from Sonata in trio n° 6 in G maj BWV 530
8	F. Mendelssohn	Sonata in F min. Op. 65 n°1 - Finale
9	César Franck	Pièce Héroïque
10	John Stanley	Voluntary I op. 7 in A maj
11	Marcel Dupré	Cortège et Litanie Op. 19 n° 2
12	Jehan Alain	Variations sur un thème de Clément Jannequin
13	Paul Manz	Dearest Jesus, at Your Word - Choral Prelude Liebster Jesu, wir sind hier
14	Paul Manz	Praise to the Lord, the Almighty - Choral Prelude Lobe den Herren
15	César Franck	Chorale n°3 in A min.
16	J. S. Bach	Toccata and Fugue in F BWV 540 - Toccata
17	J. S. Bach	Toccata and Fugue in F BWV 540 - Fugue
18	D. Buxtehude	Choral Prelude Nun bitten wir den Heiligen Geist BuxWV 208
19	J. S. Bach	Prelude and Fugue in D min. BWV 539 - Prelude
20	J. S. Bach	Prelude and Fugue in D min. BWV 539 - Fugue
21	Gabriel Fauré	Pie Jesu from Requiem
22	Percy Whitlock	Salix from Plymouth Suite (1937)
23	Maurice Durufié	Prélude sur l'Introit de l'Épiphanie
24	Paul Manz	In Thee is gladness - Choral Prelude In dir ist Freude
25	Jehan Alain	Ballade en mode phrygien
26	Johann Nicolaus Hanff	Choral Prelude Ach Got, vom Himmel sieh darein
27	Percy Whitlock	Andante Tranquillo from Five Short Pieces (1929)
28	Paul Manz	Soul, Adorn Yourself with Gladness - Choral Prelude Schmücke dich, o liebe Seele
29	J. S. Bach	Choral Prelude In dir ist Freude BWV 615
30	Marco Enrico Bossi	Pastorale for organ Op. 118 n° 3
31	J. S. Bach	Sinfonia from Cantata Wir danken dir, Got, wir danken dir BWV 29
32	Jehan Alain	Berceuse sur deux notes qui cornent AWV 5
33	J. Brahms	Choral Prelude Schmücke Dich, o liebe Seele Op. 122 n° 5
34	J. Brahms	Choral Prelude Es ist ein Ros entsprungen Op. 122 n° 8
35	Maurice Durufié	Choral Variations on Veni, Creator Spiritus Op. 4

MIDI インプリメンテーションチャート

Viscount Sonus
Classic Organ

Version: 1.0
Date: 08/07/2010

FUNCTION...		TRANSMITTED	RECEIVED	REMARKS
BASIC	Default	1÷15	1÷15	
CHANNEL	Changed	1÷15	1÷15	
MODE	Default	Mode 3	Mode 3	
	Messages	*****	*****	
	Altered	*****	*****	
NOTE		30÷101	30÷101	
NUMBER	True Voice	36÷96	30÷101	
VELOCITY	Note ON	O	O	
	Note OFF	X	X	
AFTER	Key's	X	X	
TOUCH	Ch's	X	X	
PITCH BENDER		X	X	
CONTROL		O	O	Bank Select MSB
CHANGE	7	O	O	Volume
	11	O	O	Expression
	32	O	O	Bank Select LSB
	64	O	O	Sustain
	120	O	O	All sound off
	123	O	O	All Notes Off
PROGRAM		O	X	
CHANGE	True#			
SYSTEM EXCLUSIVE		O	O	
SYSTEM	Song Pos	X	X	
COMMON	Song Sel	X	X	
	Tune	X	X	
SYSTEM	Clock	X	X	
REAL TIME	Commands	X	X	
AUX	Local On-Off	X	X	
MESSAGES	All notes off	O	O	
	Active Sense	O	O	
	Reset	X	X	
NOTES:				

Mode 1: Omni On, Poly
Mode 3: Omni Off, Poly

Mode 2: Omni On, Mono
Mode 4: Omni Off, Mono

O=YES
X=NO

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証書

本機には、保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印、お買い上げ日」などの記入をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命製品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。

有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類
接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ヒューズなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

●修理のご依頼

異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

(全国共通番号) **0570-012-808**

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。

通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は、053-460-4830 におかけください。

受付時間 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、祝日およびセンター指定
休日を除く)

FAX

東日本

(北海道 / 東北 / 関東 / 甲信越 / 東海)
03-5762-2125

西日本

(沖縄 / 九州 / 中国 / 四国 / 近畿 / 北陸)
06-6649-9340

◆製品に関するお問い合わせ

株式会社ヤマハミュージックジャパン

バイカウントオルガン お問い合わせ窓口

TEL : 03-5488-5442

受付時間 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(土曜、日曜、弊社指定休日を除く)



CLASSIC ORGAN

総輸入発売元

株式会社ヤマハミュージックジャパン

<http://www.yamahamusicjapan.co.jp/>

鍵盤・管弦打営業部 鍵盤マーケティング課

〒108-8568 東京都港区高輪2丁目17-11

TEL : 03-5488-5442

大阪事業所

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-13-17 ナンバ辻本ニッセイビル

TEL : 06-6649-9101